The Association of Rural Planning

北海道におけるファームインの現状と評価

－鹿追町，新得町を事例として－

The present condition and problems of the Farm inns in Hokkaido

－Cases of Shikaoi town and Shintoku town－

高田哲也* 佐藤洋平* 石川雅也*
*Tetsuya TAKADA *Yohei SATO *Masaya ISHIKAWA
(*東京大学農学生命科学研究科)
(*Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The Univ. of TOKYO)

Ⅰ はじめに

グリーンツーリズムとは，都市住民が農村での休暇や農業体験，農村住民との交流などを行うといった，農村での観光の意味に使われている。そして，農村資源を見直し活用することによって，都市と農村の交流の場の創出，地域の人材の育成，確保，就業の場の創出など，農村の活性化に役立っている。このグリーンツーリズムの中で中心を占めているのがファームイン[注1]であり，ファームインとは兼業の一環として行われる宿泊施設である。

都市住民の中では，環境への意識の高まりの中，健康指向や，自然志向，新鮮・安全な農産物への要求が高まり，都市住民のリフレッシュの手段としてグリーンツーリズムは注目されている。

そうした中で，1993年に「農村でゆとりある休暇を」推進事業が農林水産省主体で開始され，日本でのグリーンツーリズムに対する国の取り組みが推進されることとなった。さらに1994年に「農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律」いわゆる「グリーンツーリズム法」が制定され，1995年度から施行された。しかし，そういった追い風の中にありながらも，グリーンツーリズムの定着が進んでいないのが現状であり，ファームインも例外ではない。

Ⅱ 研究の目的及び方法

(1) 研究の目的

ファームインの定着が進んでいないことはファームインそのものの数が少ないということがある。ファームインの数がそれほど増えない原因に，ファームインを経営することを阻害する要因があることが考えられる。また，ファームイン利用者のニーズが普通の旅行と違うため，経営希望者が把握できないということも考えられる。

本研究では，ファームイン経営を阻害する要因を把握することを1つの目的としている。また，ファームイン経営希望者に有益である，ファームイン利用者のニーズを把握することである。

(2) 研究の方法

経営者へのインタビュー調査により，ファームインの経営を阻害する要因を把握する。次に，利用者のニーズを満足度という視点で捉え，ファームイン利用者に対するアンケート調査により，利用者のファームインに対する満足度を把握する。

Ⅲ 研究対象地の概要

北海道は，広大な空間と豊かな自然を背景として，グリーンツーリズムに対する関心も国内においていち早く高まっている。道庁でも農政部農村計画課を中心として，ファームイン・マニュアルの作成をするなど行政側からもサポートをはじめている。本研究対象地区として選定した十勝地方の鹿追町と新得町は，農地のほとんどが畑地と牧

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

草地であり，ヨーロッパに類似した景観を有し，グリーンツーリズムに対しての取り組みも道内で非常に盛んである。鹿追町と新得町のグリーンツーリズム資源としては，ファームイン，農業体験，乗馬・カヌーなどのアウトドアスポーツなど様々である。調査地区のファームインは全部で8軒あるが，このうち表1に示す5つのファームインを調査対象とした。

表1　調査対象ファームイン

	場所	農業活動	体験
A	鹿追町	農村レストラン	乗馬，熱気球
B	鹿追町	農村レストラン	花摘み，いちご狩り
C	鹿追町	酪農	乳絞り，トラクター試乗
D	新得町	農村レストラン	糸紡ぎ，クラフト体験
E	新得町	酪農	酪農体験

注）体験はあくまで代表的なものであり，他にもある。

Ⅳ　ファームイン経営阻害要因の把握

(1)　ファームイン開設にあたる手続き

ファームイン開設にあたってまず問題になっているのは，手続きの複雑さである。これについて北海道では農政部農村計画課が作成したファームイン・マニュアルにより，農家がファームインに取組むに当たって必要となる手続きの概略をとりまとめている(表2)。ファームイン・マニュアルの活用により，開設に関する手続きはわかりやすくなったといえるが，許可を得ることが難しいのが現状である。

特に困難なものが旅館業法である。この法律では，営業の種類をホテル営業，旅館営業，簡易宿舎営業，下宿営業と区別している。ホテル営業は客室が10室以上，旅館営業は客室が5室以上のため，ファームインを設立する場合は簡易宿所営業として取り扱われることが多い。簡易宿所営業では，室数についての基準はないが，延床面積33平方メートル以上という基準がある。簡易宿所営業は比較的多人数のための基準であるため，1室で1組のみを扱うことのあるファームインには不利な基準になっている。

ファームインを開設する際には，建築基準法や消防法，食品衛生法などの影響もあり，改築費用や，新築費用が高くつくという問題もある。しかし，今回調査対象ファームインとして選んだものの中の二つは，ここ2年間に開設されたものであるが，町からの助成金[注2)]のため建築費用が安くなった。

(2)　社会システム

今回研究対象地とした北海道のグリーンツーリズムにおいて，集客に最もマイナスに働いているものは，交通費が高すぎることにあろう。北海道への旅行はほとんどの場合航空機を使っているのが原因である。[注3)]

グリーンツーリズムの発達しているヨーロッパでは，働き盛りの都市住民の多くが1ヶ月程度の長期休暇をとることは普通であり，この休暇を利用して低廉な農家民宿に長期滞在をしている。日本では，長期休暇をとることのできるような社会システムは未発達であり，このことがグリーンツーリズムの発展の妨げになっている。

情報提供の問題もある。個人でPRするのには限界があり，ファームインにはどのような設備があり，どのような農業体験ができるかという情報は都市住民には伝わっていない。

表2ファームイン開設への手続き

営業を行う地域に係る手続き
1　自然公園法
2　北海道立自然公園条例
3　北海道自然環境等保全条例
4　鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律
5　景観条例等
6　都市計画法
7　農業振興地域の整備に関する法律
施設を設置する土地に係る手続き
1　国土利用計画法
2　農地法
3　森林法
使用する建築物に係る手続き
1　建築基準法
2　消防法
宿泊等の営業に係る手続き
1　旅館業法
2　食品衛生法
3　食品の製造販売行商等衛生条例
4　酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律
5　水質汚濁防止法

文献2）より引用

NII-Electronic Library Service

V　満足度を規定する要因の把握

(1)　アンケート調査の概要

調査方法として郵送によるアンケート調査法を用いた。1999年12月上旬から下旬にかけて同年度の夏期に宿泊した人を対象に214部を配布し，83通が回収された。回収率は38.8%であった。そのうち全てに回答されていた82通を分析対象とした。

アンケートの内容は大きく分けると，3つである。1つは性別・年齢など属性に関するものであり，2つめは同行者や交通手段，期待度などの旅行実態であり，3つめは旅行評価に関するものである。

(2)　属性に関して

性別は，男女ともほぼ同じ割合となった。年齢は30歳～45歳が5割以上を占め，15～30歳の比較的若い年齢層が32%で2番目に多い。

図1は解答者の職業別の割合を表したグラフである。会社員がもっとも多く，続いて公務員・教職員となっている。主婦の割合が比較的多い。これは家族旅行では母親が解答者となったためだと思われる。宿泊者の居住地としては，ファームインのある北海道が最も多く19人（23%）である。次いで東京が16人（20%）であり，大阪と愛知の6人（7%）と続く。

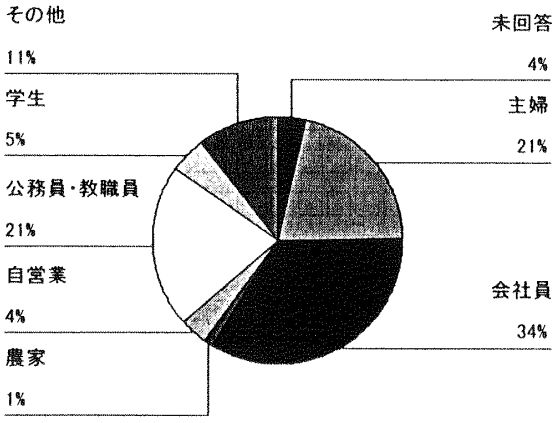

図1　職業

(3)　旅行実態について

図2はファームインに対する情報入手源の割合を示したグラフである。その結果，ガイドブックやパンフレットを情報入手源とした人が49%となり最も多かった。旅行代理店を通じて情報を入手した人と同数の人が，インターネットによって情報を入手していた。

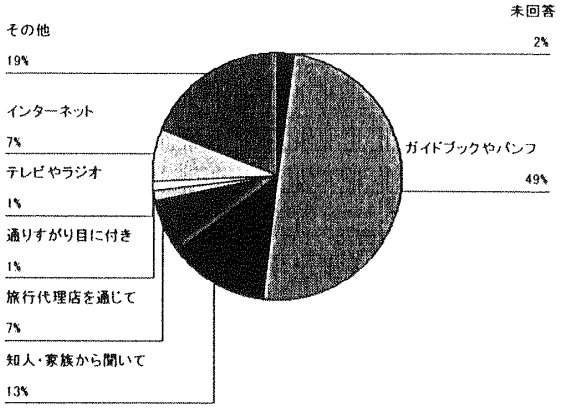

図2　情報入手源

同行者については，3～5人の家族連れが一番多い。次いで家族2人で来る人，知人・友人と2人で来る人が多い。

道内での主な交通手段としては自家用車が最も多く，次いでレンタカーであった。

宿泊先を選定した際に①景観，②建物・設備，③サービスや人々との交流，④滞在中の活動の4つの項目について，どの程度期待していたかを評価する指標として期待度を求めた。これ以降は便宜上，③をホスピタリティ，④をアクティビティとする。

期待度は「非常に不安」から「たいへん期待する」までの5段階で回答してもらい，1～5点の等間隔尺度で数値化した（表3）。

表3　期待度の集計結果

項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
景観	82	2.00	5.00	4.41	0.68
建物・施設	82	2.00	5.00	4.01	0.88
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ	82	2.00	5.00	3.76	0.84
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ	82	2.00	5.00	4.05	0.91

表3で示した通り，どの項目も中間値以上の期待度を示している。最も高い値を示したのは景観で

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

ある。このことは，グリーンツーリズムに対する期待の前提にあるのが，都市にはない農村の豊かな自然環境であるので，当然の結果といえる。

(4)　宿泊客の満足度

①旅行全体の満足度

満足度は，「非常に不満だった」から「たいへん満足した」までの5段階で回答してもらい，1～5点の等間隔尺度で数値化した。旅行全体の満足度は4.57という非常に高い得点を示した。最低でも中間値の3点であり，不満に思ったという人は1人もいなかった。この結果より，本研究での調査対象ファームインは，利用者を満足させるのに十分なサービスを提供しているといえる。

さらに満足度について詳細に解析した結果が表4である。各項目の平均値から，景観の満足度と建物･施設の満足度が最も高いことが確認された。

表4　満足度の集計結果

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
景観	82	3. 00	5. 00	4. 45	0. 61
建物・施設	82	2. 00	5. 00	4. 45	0. 72
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ	82	2. 00	5. 00	4. 04	0. 97
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ	82	2. 00	5. 00	4. 21	0. 80

②建物・施設

建物・施設の満足度についてさらに詳しく解析したのが図3である。設定した項目は，外観，客室，食堂，トイレ・風呂，冷暖房，寝具の6項目である。最も高い満足度を示したのは外観で4.52であった。また，客室や備品についての配慮も行き届いていて高い満足度につながっている。

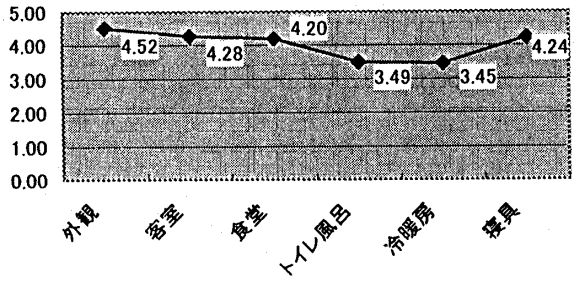

図3　建物・設備に関する満足度

③ホスピタリティ

ホスピタリティについて，さらに詳しく解析したのが図4である。項目はオーナー達の気配り，オーナーとのコミュニケーション，地域の人々との交流，周辺の情報提供・案内，食事の5項目である。最も高い満足度を示したのはオーナーや従業員の気配りで4.29であった。

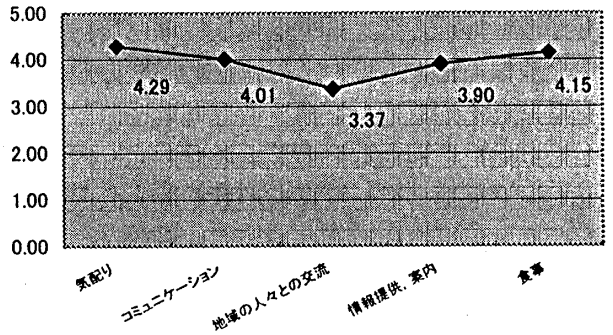

図4　ホスピタリティに関する満足度

④アクティビティ

回答者には，滞在中の過ごし方について，周辺で行うことのできる具体的な活動を挙げ，活動した項目（複数回答可）について評価してもらった（表5）。最も多くの人が行ったのは周辺の散歩やハイキングで，5割以上であった。ついで多いのは温泉などの観光地巡りである。

表5　アクティビティに関する満足度

項目	人数	割合（%）	満足度
花摘み，野菜収穫体験などの農産物収穫体験	14	17	4. 46
チーズ作り・バター作りなどの加工体験	17	21	4. 53
乳絞り・トラクター試乗などの農作業体験	22	27	4. 50
乗馬・カヌー・つりなどのアウトドアスポーツ	19	23	4. 17
ゴルフ・テニス・体育館でのスポーツなど	7	8	4. 43
陶芸・糸紡ぎなどのクラフト体験	5	6	4. 80
温泉などの観光地巡り	31	37	4. 42
周辺の散歩・ハイキング	46	55	4. 2
何もしないでのんびり過ごした	28	33	4. 52

NII-Electronic Library Service

（5） 満足度の要因分析

旅行全体の満足度とそれを規定する要因との関係について，その概念図を示すと，図３のようになる。旅行全体の満足度を被説明変数，景観，建物・施設，ホスピタリティ，アクティビティの満足度を説明変数として重回帰分析を行った。また，景観以外の満足度に関しての要因に関しても分析を行った。

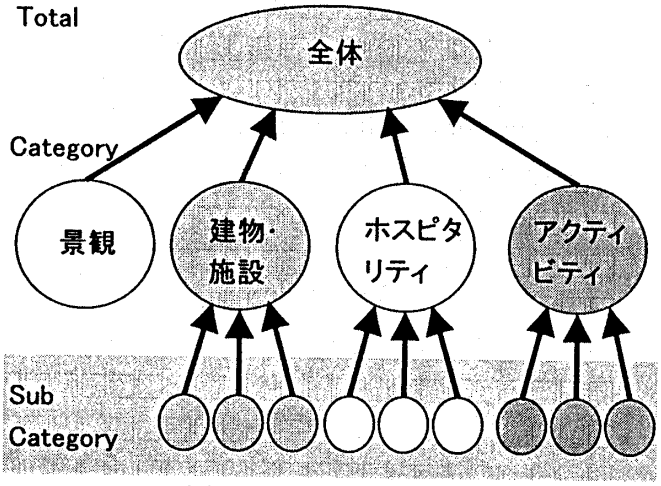

図５ 満足度概念図

①旅行全体の満足度（表６）

最も大きな偏回帰係数を示したのは景観の満足度の 0. 240 であり，全体の満足度への影響力が最も強いことが示唆された。最も影響力の小さいものはホスピタリティの満足度であった。

表６ 旅行全体の満足度の重回帰分析

説明変数	偏回帰係数	t 値	有意確率
景観の満足度	0. 240	2. 193	0. 031
建物・施設の満足度	0. 195	1. 729	0. 088
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨの満足度	0. 158	1. 396	0. 167
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨの満足度	0. 175	1. 484	0. 142
F値			10. 515
決定係数			0. 320

②建物・施設（表７）

建物・施設について，同様に重回帰分析を行った。係数が最も高いのは，寝具の満足度であり，次いで客室，建物の外観と続く。客室，建物の外観については，どのファームインとも個性的であり，宿泊客に印象深かったのが理由であろう。

表７ 建物・施設に関する重回帰分析

説明変数	偏回帰係数	t 値	有意確率
建物の外観	0. 181	1. 545	0. 129
客室	0. 292	1. 949	0. 057
食堂・レストラン	0. 010	0. 081	0. 936
冷暖房	0. 066	0. 468	0. 642
寝具	0. 297	2. 073	0. 043
F値			7. 051
決定係数			0. 359

③ホスピタリティ（表８）

次にホスピタリティについて同様に重回帰分析を行った（表５）。係数が最も大きいのはオーナーとのコミュニケーションの満足度，次いでオーナーや従業員の気配りになっていて，この２つより Hospitality の満足度にはオーナーの個性が大きく影響するということがわかる。

表８ ホスピタリティに関する重回帰分析

説明変数	偏回帰係数	t 値	有意確率
オーナーや従業員の気配り	0. 271	1. 618	0. 112
オーナーとのコミュニケーション	0. 498	3. 012	0. 004
地域の人々との交流	0. 021	0. 199	0. 843
周辺の情報提供や案内	0. 114	1. 217	0. 230
食事	0. 056	0. 561	0. 578
F値			23. 497
決定係数			0. 684

Ⅵ 考察

経営者へのインタビュー調査の結果より，ファームインの設立を阻害する要因で最も大きいのは旅館業法であった。ファームインにとっては不利な建築基準のため，新築・改築に多大な費用がかかってしまう。ファームインを法律上で明確に位置付け，農家が兼業の一環として少ない投資で始められるような関係法規の整備が急務である。

北海道のファームインにとって集客に影響するのは，交通費である。海外旅行の価格は下がり国内旅行の価格に肉薄している。国内航空運賃の低

NII-Electronic Library Service

The Association of Rural Planning

下が望まれる。

情報が行き届いていないという問題があったが，ホームページでの情報入手者が 7.1％と比較的多かったことと，コストパフォーマンスも良いことから，今後はインターネットによる情報発信が有効であると考えられる。

旅行の満足度に最も影響を与えるものは景観の満足度である。建物・施設の満足度に大きく影響を与えるものは，寝具や客室など実際に利用したものであり，ホスピタリティの満足度に大きく影響を与えるものは，オーナー達の気配りやオーナーとのコミュニケーションである。満足度に大きく影響を与えるものを重点的に整備することが効果的なファームイン経営であるとすれば，周辺の景観保全と整備が最も重要である。また，建物については寝具と客室内に気を配り，さらに宿泊客とのコミュニケーションを大切にすることが重要であることが示唆された。

Ⅶ　終わりに

本研究では，農村活性化の１つの手段であるグリーンツーリズム，その中でもファームインを取り上げ，現状の把握と評価を行い，ファームインの更なる定着への有効な手段について考察をした。経営者の環境整備などの努力に加えて，旅館業法などの関係法規の見直しや援助といった行政側からの後押しが必要不可欠である。グリーンツーリズムは地域によって違った農業資源や，文化的・社会的な資源などを活かすものと言える。地域に適したファームインの経営方法の確立が今後の課題である。

注１）農家が経営する宿泊施設としては農家民宿という呼称があるが，今回の対象には，民宿以外にペンションタイプ，コテージタイプも含み，農家民宿とすると紛らわしいため，ここでは農家もしくは農業従事者が経営する宿泊施設という意味でファームインという用語を用いた。

注 2) 鹿追町では平成 10 年にファームインの建築費用の 3 分の 1 を 300 万円を上限として融資している。

注 3) 北海道への観光客の 8 割は航空機を利用している。（文献１）より）

［参考文献・引用文献］

１）平成 10 年度観光客動態調査報告書，北海道経済部観光局，(1999)

２）ファームイン・マニュアル'98，北海道農政部農村計画課，(1998)

３）山崎光博，小山義彦，大島順子：グリーンツーリズム，家の光協会，(1993)

４）石村貞夫：SPSS による統計処理の手順，東京図書（1995）

５）土田昭司：社会調査のためのデータ分析入門，有斐閣

The purpose of this study is the better suggestion for the farm inn management. The farm inn management hindrance was grasped by the interview investigation to the manager, and the requirement for the user was grasped by the questionnairing to the lodger in the form of the satisfaction. Unimprovement of related law and regulation, transportation expenses, unimprovement of information source were raised as a hindrance. The value in which landscape and building and facilities were high on the satisfaction was shown. And result of the multiple regression analysis, at the satisfaction of the whole travel, it was confirmed that the satisfaction of the landscape gave the effect most.

NII-Electronic Library Service